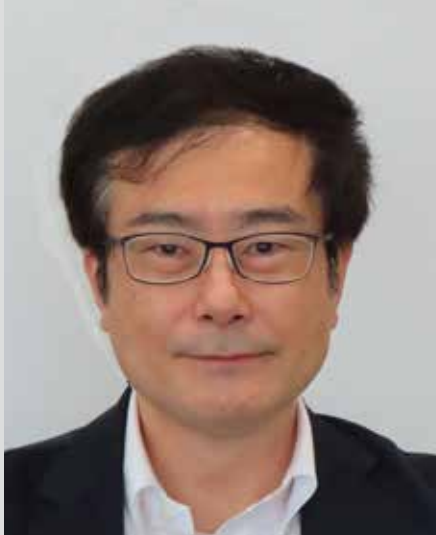


かお・人・interview

2023年8月22日

部長

インタビュー



国土交通省 九州地方整備局
営繕部 部長

西尾 達司氏

NISHIO Tatsuji

営繕部は、国民の共有財産である官庁施設の保全・管理を担っている。業務の専門性は高く、建物の維持・管理・改修に加え、環境対策や公共建築の技術支援など幅広い。これら営繕事業を持続的に進めるためには、施工者の負担を軽減し受発注者間で対等かつ協力的な関係を築く必要があると西尾部長は話す。業界の活性化、生産性向上に向けた取り組みなど現状と課題について伺った。

Q部長就任にあたっての抱負

福岡は高校時代まで過ごした場所なので、懐かしい気持ちでいっぱいです。約20年前には九州地方整備局に勤務していたこともあり、職場の内外で昔のつながりを再び築きながら、仕事を進めることは大きな喜びです。営繕部には今も昔も優秀な職員が多く在籍しており、技術的な対話を信頼しながら行うことができます。職員の能力を結集し、個々の庁舎整備プロジェクトなどをゴールに導くためには、職場環境を整え、合理的かつ健全に仕事を進めていくことが重要です。

そのために、営繕工事の生産性向上に取り組みたいと考えています。地域において官庁営繕事業を持続的に進めるためには、まずはこの生産性向上によって施工者の負担を軽減するとともに、受発注者間でのフラットな関係を構築することが重要だと認識しています。逆に言えば、整備局の仕事に対して、建築・設備施工者から信頼を獲得し続けることの重要性を組織内に浸透させることを目指しているといえるでしょう。



▲佐伯税務署外観東面

Q赴任先の思い出

鮮明に思い起こされるものはいくつもありますが、特に思い出するのは、平成19～20年度に近畿地方整備局で建築行政の担当者として勤務したときです。一つの住宅会社が大量に発生させた建築基準法違反(木造住宅の壁量不足)に対して管内の特定行政庁(府县市)とともに対応することとなりました。この前代未聞の問題

に対して、手探りながら一気に調査結果を公表したことで、府県市の職員の方々と一体感を共有できたと思っています。また、若手時代に環境庁へ出向した際、「光害対策ガイドライン」の策定などに取り組みました。この期間は仕事の基礎を培った時期でもあり、自分自身の現在の振る舞いにつながる修行をさせてもらったと感じます。

Q災害活動の拠点となる行政施設

国の庁舎は、災害応急対策活動を支える基盤となっており、大地震の際にも活動できるような庁舎の新築や耐震改修などに優先的に取り組んできました。その結果、管内官庁施設の耐震化進捗率は99%（床面積ベース）に達しています。今年度は「大分地方合同庁舎」の設計に着手し、整備が完了すれば耐震化は完了する予定です。

一方で、津波や洪水などによる浸水の可能性がある施設における災害対応力の強化としては、受電設備・発電設備などの水没に備えた対策が不十分な箇所もあり、今後効率的に対策を進める必要があります。

▲名瀬第2合同庁舎(イメージ図)
まちづくりを先導する施設として計画防災面も強化



▲北九州航空基地・北九州航空研修センター(イメージ図)
悪天候や災害時においても業務体制の継続が可能となる施設計画



▲名瀬第2合同庁舎(イメージ図)位置図

また、財務局と地方公共団体が取り組んでいるエリアマネジメント(地域における国公有財産の最適利用)において、国施設に関する技術面のサポートを行っています。これにより、地域のニーズにも配慮した庁舎整備の方針が明確になっています。さらに、津波避難ビルとして指定された庁舎の整備(例:佐伯税務署など)では、周辺住民のための屋上避難場所の提供(津波発生時において施設内動線を開放する仕組み)などにも取り組んでいます。

Q九州地整の働き方改革について

生産性の向上だけでなく、庁舎の災害対応能力や環境性能の向上、木材の活用など、対処すべき問題は広がり続けています。こうした課題にも確実に取り組みつつ、施設づくりにおいてベースとなるさまざまな目標を達成するために

は、仕事の重点化と効率化が重要であり、継続的なアプローチが求められます。仕事の効率化には、例えば施設改修について、関係者の要望を踏まえつつ、現場での施工も考慮しながら、新たな工法や設計手法を導





▼九州管区警察学校体育館・道場(イメージ図)

入する等が重要と考えています。そのための選択肢を確保することを考慮すれば、設計段階での整理には限界があることもあって、実際の施工や工事の発注を見据えた幅広い検討を行うことが必要です。急がば回れという考え方が重要です。このようなスタンスが、実務段階でのボトルネックの発生を防ぐことになり、ひいては全体業務量の縮小につながるのです。このような企画段階での検討について、計画、設計、監督などの各部門の職員がそれぞれの知見を出し合い、組織としてより良いものを目指します。

そのためには、風通しの良い魅力的な職場環境の整備が重要です。結果として、施工者の負担項目を縮小できれば、よりダイレクトな生産性向上につながります。また、工事施工者の働き方改革も不可欠です。現場の完全週休二日制を確保するため、実態に状況に即した工期をしっかりと算定(積み上げ)しています。現場配置技術者の方の負担軽減の取り組みはいろいろありますが、最も重要視するのは、設計変更の方向性等、発注者としての判断のスピードアップです。適切なタイミングで手戻りのない受発注者間の合意形成が図れるよう取り組んでいます。

Q地域建設業界への要望、メッセージ

営繕部の仕事は完成した時点で最も重要であり、工事施工者がいなければ実現できません。施工の実態にも配慮ができる工事発注者として信頼を得ることを目指し、建築・設備業界の皆さまから常に良い意味で注目される部門でありたいと考えています。

より多くのプロジェクトに関心をもっていたきたいので、営繕部では、公告情報のメール配信サービス(無料)を行っています。これにより、どなたでも公告日に自動で情報を取得できます。一度登録すれば、その後情

報を入手する手間が一切必要ありませんので、工事・業務の入札参加を検討される方は、ぜひ、活用いただければと思います。

Q趣味や健康法

趣味は読書でした

が、ここ10年くらいはポッドキャストやラジオなどに費やす時間増えました。転勤が多いので本の処理に困っていたこともきっかけです。「COTEN RADIO」、「すごい進化ラジオ」、「アフター6ジャンクション」は欠かさずチェックします。

運動に関しては、去年腰を痛めたこともあり体に無理がないようにゴルフを楽しむ程度でしたが、夏に入ってからHIIT(インターバルトレーニング)等を再開。少しは体が絞れてきたかなと感じているところです。

メール配信内容(イメージ:工事)

件名：【〇〇地方整備局営繕部(※1)発注情報のお知らせ】
 本日、令和〇年〇月〇日、次の工事の入札公告を実施しました。
 工事名：〇〇改修工事
 工事種別：建築(※2)
 等級区分：〇ランク又は〇ランク
 工事場所：〇〇県〇〇
 技術資料の提出締切日(※3)：令和〇年〇月〇日
 詳細は入札情報サービスのページで公開しています。
 《<http://www.i-ppi.jp>》
 また、〇〇地整営繕部のHPでも公開しています。
 《<http://www.xxx>》
 更新・削除は以下のURLにて
 《<http://www.xxx>》

プロフィール



出身地：東京都
 生年月日：S44年8月7日(53歳)
 H 5年4月 建設省 入省
 H16年4月 北陸地方整備局 営繕部 技術・評価課長
 H17年4月 国土計画局 大都市圏計画課長補佐
 H19年4月 近畿地方整備局 建設部 建築安全課長
 H21年4月 関東地方整備局 営繕部 営繕品質管理官
 H23年4月 大臣官房官庁営繕部 整備課 特別整備室 課長補佐
 H25年4月 四国地方整備局 営繕部 営繕調査官
 H27年4月 大臣官房官庁営繕部 整備課 特別整備室 企画専門官
 H30年4月 関東地方整備局 東京第一営繕事務所長
 H31年4月 大臣官房官庁営繕部 整備課 木材利用推進室長
 R 4年4月 中国地方整備局 営繕部長
 R 5年4月 現職